

第 13 回
熊本大学医学部附属病院群
臨床研修指導医研修ワークショップ報告書

2013 年 8 月 23 日～8 月 24 日
熊本大学医学部附属病院

平成 25 年度熊本県委託事業 臨床研修医確保（指導医確保）事業

巻頭言 - 感謝の気持ちを込めて -

皆様におかれましては、日頃より、熊本大学医学部附属病院群の医師研修・育成にご尽力賜りまして、たいへんありがとうございます。本年、第13回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医研修ワークショップが開催されました。大学内から20名、学外から23名、計43名の先生に参加して頂きました。多忙な診療の日々の中で、2日にわたるワークショップを熱心に受講していただきました参加者の皆様に感謝しつつ、その内容を本冊子にまとめさせていただきました。

優れた医療人を育成することは、熊本大学医学部附属病院の理念にも謳われており、指導医研修ワークショップは、きわめて重要な活動であると認識しております。そもそも臨床研修必修化の以前から、研修指導医の研修が開始され、医師卒後早期教育の標準化が目指されていきました。医師卒後研修の現制度が必修化されて以降、指導医の資格が明確化されることとなり、本ワークショップのような厚労省規定の研修修了を条件に、同省医政局長名での認定証が交付されることになりました。本年も、その厳しい規定にしたがって、有意義で高度な研修プログラムが用意されておりました。充実した研修ワークショップを通じて、熊本地域の医師育成に貢献し、優れた医師が県内に定着することにも寄与しているものと存じます。

今回も、山口大学総合診療部の松井邦彦教授をチーフタスクフォースとしてお迎えし、『卒前教育から卒後教育、現状と課題』でご講演をいただきました。また高知医療再生機構理事長の倉本秋先生には『地域で学ぶ、地方で学ぶー地域のキャリア形成支援策』の演題で特別講演を賜りました。さらに、大分大学北野敬明教授、宮崎大学 小松弘幸准教授、高千穂町国民健康保険病院 箕田誠司院長、そして総合臨床研修センターの山下センター長を初めとする当院関係者のご尽力もあり、指導医のあり方や教育システムについて、タイトな日程ながら非常に貴重で有意義なワークショップとなりました。

今回は、病院長・副病院長クラスの先生がたのご参加もあり、直接的な指導方法の教授検討にとどまらず、世代間の垣根を払った意見交換も含めて研修指導における意識改革のきっかけとなったのではないかと存じます。今後とも、継続的に多くの先生が、このワークショップに参加されて研修医の指導方法を習得され、指導医としてのキャリアアップに活かしていただけますよう、一層の努力をしてまいりたいと思います。臨床研修指導医ワークショップを通じて、地域医療がより望ましい形へと発展していくことを願いつつ、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年 11 月
谷原秀信（熊本大学医学部附属病院長）

目 次

■ ワークショップの主題と目標	1
■ ワークショップの日程	2
■ 参加者名簿	4
■ 開会、講演、他己紹介（アイスブレイク）	7
■ 各セッションの概要と感想	15
■ 各グループのプロダクト	
1. 社会が求めている医師の臨床能力とは	21
2. 学習目標	29
3. 学習方略	33
4. 対応に困った研修医へ対応	38
5. 指導医のあり方	41
6. 教育評価	51
7. 臨床研修の問題点への対応	57
■ アンケート集計結果	65
■ おわりに	83

(第13回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医研修ワークショップを終えて)